日本点字図書館附属
池田輝子記念

ふれる
Tactus Museo
博物館

共催：手と目でみる教材ライブラリー



ふれれば 目 開く想い

日本点字図書館は、創立以来、「読書のよろこび」に重きをおいて、多くの視覚障害利用者に図書の情報を届けてきましたが、見えないからこその「ふれて知る愉しみ」といったものについては、用具ショップで扱うおもちゃやゲーム類を除けば、積極的な関わりを持ってはきませんでした。

盛岡にあります「桜井記念・視覚障がい者のための手でみる博物館」や大阪の「国立民族学博物館」などでは、手で触れる美術品や工芸品などを楽しむ視覚障害者が大勢います。最近では写真に熱中する人さえおります。こうした視覚障害者の話を見聞きするたびに、当館としても、何か文化的な事業ができないかと考えていました。

それが今回の「ふれる博物館」につながったのです。見える人の世界では、百聞は一見にしかずという言葉がありますが、私たち視覚障害者にとっては、百聞は一触にしかずということがあるのです。まさに、ふれれば 目 開く想いを抱き、聞くだけでは分からない豊かな情報を得ることができるのです。

今後どのように発展させていくかが課題ですが、現代の技術を使った展示品や歴史的資料の収集や、本間一夫記念室等と相まって、当館の基礎的な文化の発信などに努めていきたいと考えております。

社会福祉法人日本点字図書館　元会長　田中徹二



《常設展示》レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」 製作：アンテロス美術館（イタリア・ボローニャ） 所蔵：大内 進（手と目でみる教材ライブラリー）

❶ふれる博物館の目的

触察に適したアレンジを施した絵画や建築、そのほか立体物を展示する、だれでもがさわれる「ふれる博物館」です。点字や音声だけでは伝えきれない触覚情報を提供することで視覚障害者の教養を高め、もって視覚障害福祉の向上に寄与することを目的とします。

❷ふれる博物館の構成

①企画展示

都内で「手と目でみる教材ライブラリー」を主宰している大内進氏（国立特別支援教育総合研究所名誉所員）が所蔵しているコレクションを中心に、年間２回、テーマを変えて、企画に合った関連団体、企業の協力を得て開催します。

②視覚障害者生活用具の保存

保存している盲人用具は昭和39（1964）年、当館創立者本間一夫が第３回世界盲人福祉会議に出席するために渡米、訪欧した時に収集した約150点にのぼる盲人用具と、その後寄贈や販売所の過去の見本など加え約950点を保存しています。

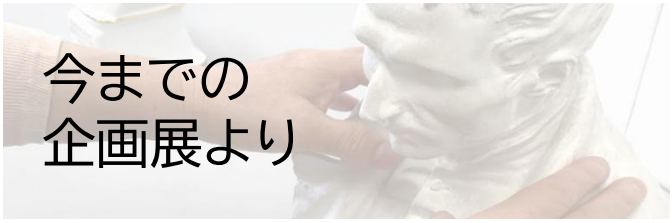
★ご来館についてのお願い2つ

・開始の5分から10分前ごろにお越しください。
・交通機関その他の事情で遅れる場合には、お電話にてふれる博物館にご連絡ください。

★展示物をさわる際のお願い3つ

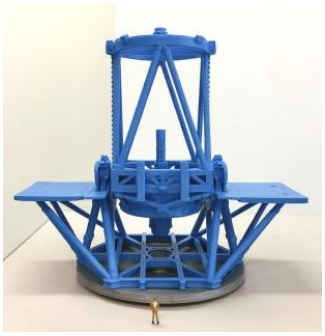
・入口で手指の消毒をお願いします。
・腕時計、指輪ははずしてください。
・破損しないよう、やさしくさわってください。

★ご支援のお願い　当館は本体の日本点字図書館の延長として、入館料を無料で公開しております。民間の社会福祉法人の運営ですので、公的補助、事業収入のほかご寄付で経営が成り立っております。ホームページにご支援方法を掲載しておりますので、ご協力いただければ幸いです。

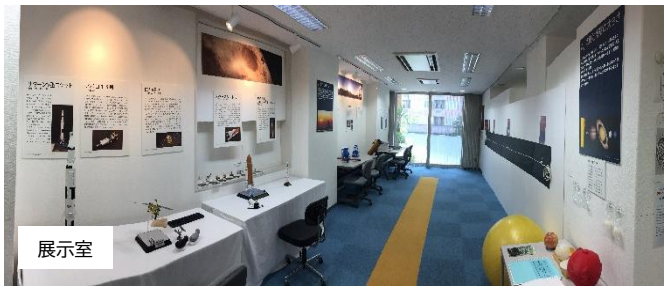



ルイ・ブライユの生家模型（1/25）


松本城模型（1/300）


すばる望遠鏡模型（1/110）


ティラノサウルス類の歯（化石）



（写真協力：手と目でみる教材ライブラリー／国立天文台／奇石博物館）

日本点字図書館附属　池田輝子記念

ふれる博物館 Tactus Museo

共催：手と目でみる教材ライブラリー

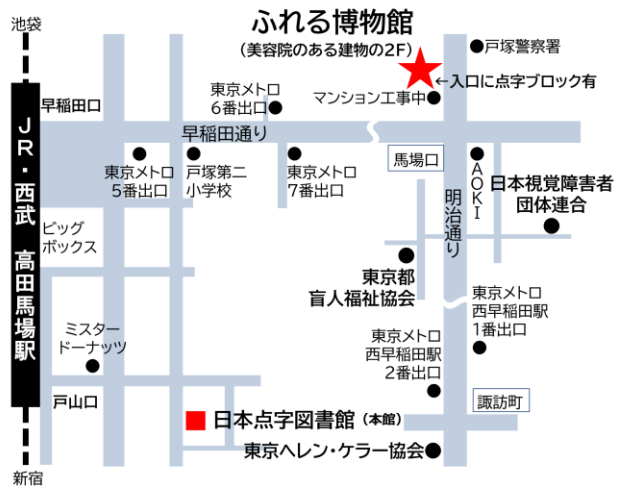
開 館 日◎毎週水・金・土曜日

（年末年始・祝日休館 臨時休館有）

開館時間◎10 時～16 時

東京都新宿区高田馬場2丁目3－14　アイ・ブライト2階
（1階は美容室　路上に誘導ブロック有）
電話　090-3247-7290（開館日のみ）
03-3209-0241 本館代表

アクセス
・JR山手線・西武新宿線・東京メトロ東西線 高田馬場駅下車徒歩 10 分
・東京メトロ副都心線　西早稲田駅2番出口から徒歩7分
・駐車場はございません。



※10 時、13 時、15 時の予約制です。
展示スペースは約 37 ㎡と狭いため、団体でのご来館は受け付けておりません。

（2026.10）